

卒業研究ゼミでオペレッタ 不思議の国のアリス 実演

仲間との絆を深め満足度の高い劇に



オペレッタ「不思議の国のアリス」に挑戦

幼児保育学科の1（1年生）・卒業研究ゼミ（2年生）では、令和6年度から初の試みとして、「身体表現」「音楽表現」「造形デザイン」の3つの「表現系ゼミ」が協働する活動を行っています。

幼稚園教諭や保育士を目指す表現系ゼミの学生が、「不思議の国のアリス」を題材としたオペレッタに挑戦し、試行錯誤を繰り返して、仲間との絆を深めながら、演技・衣装・歌・音楽と、多様な要素が詰まった舞台を創り上げてきました。

10月28日、幼児保育学科

「表現系ゼミ」の合計31名の学生が系列園である、あおぞら保育園及び、あおぞらウインクルム保育園の園児（年中児）を対象に、あおぞら保育園の3階ホールにて実演をしました。前期から練習に励んでいた学生達が初めて観客の前に行った舞台でした。

学生達は緊張することもなく自信をもって演じることができ、特に劇中の「なぞなぞ」では、園児も劇に参加する形で大変盛り上がりを見せ、笑顔あふれる楽しい時間を過ごすことができました。

学生からも、「子どもたちが笑顔で劇を見ていたのが嬉しかった」「作られた側だけでなく、観客側も楽しんでいた！」「すごく緊張して練習通りにできるかなど不安に思いましたが、実際にやってみると子どもたちも楽しそうに見ている姿が嬉しかったです。

「表現系ゼミ」の合計31名の学生が系列園である、あおぞら保育園及び、あおぞらウインクルム保育園の園児（年中児）を対象に、あおぞら保育園の3階ホールにて実演をしました。前期から練習に励んでいた学生達が初めて観客の前に行った舞台でした。

学生図書委員会

本当に役に立った！私たちの1冊

短大図書館は、10月27日（11月9日の読書週間に合わせ）、学食での図書展示を行った。学生に人気の高い学食に図書を出し、もっと読書に親しんでもらおうという思いで、テーマは「食」と読書の秋・おなががすく本」など、学食が提供するメニューに連動した「○○が食べたくなる本」と、食欲を刺激するような小説やエッセイを日替わりで紹介した。学食と図書館の共同企画は、今回が初の試み。

同時に、図書館1階では、学生図書委員会による企画「本当に役に立った！私たちの1冊」が行われた。委員が選んだ図書を展示し、手作りのPOPで紹介する



左が学食と本のコラボ、右が私たちの1冊のコーナー

るように、書棚の前で立ち止まる利用者の姿が見られた。委員長の山本星史瑠さん（幼保2B）は、「この取り組みを行うことになったのは、実習やテスト勉強等でつまずいた際に、図書館に参考になる本があるのと知ってもらえたら、利用者が増えるのではないかと考えたのがきっかけでした。読書週間の取り組みを通して、皆さんの実習やテスト勉強等の力になれば嬉しいです」と話した。

また、先輩から受け継がれる「学生図書委員会機関紙 Koala」は、記念すべき第20号を迎え、12月2日に発行した。12月8日に開催された「図書館と県民のつどい 埼玉2024」（桶川市民ホール・さいたま文学館）では、委員長、副委員長が初参加し、広く県民にこれらの活動をアピールした。

学生と大学との意見交換会

学長出席のもと学科別に実施

短期大学では、教育研究に係る諸活動や学修成果の獲得状況、大学運営等に関する自己点検を行う過程において、大学の教育活動への学生の参画を促進するための活動として毎年公開講座を開講している。

中学校高等学校では伊奈町教育委員会と連携して、地元町民の方々から好評をいただき学校開放講座を開催している。10月12日に町内在住の小学校3年生から6年生とその保護者を対象とした「理科実験教室」が本校の科学実験室を会場として開催された。

今年度も理科の教員を中心に本校の中・高校生が講師となり、「理科観察実験講座」と銘打って、理科に興味をもってもらおうと本校を知ってもらう機会として行われた。

今回の講座は小学生と保護者14組が参加し「化石発掘」「ブーメランづくり」



幼児保育学科においては、授業の空き時間を利用して実施してくれる公務員対策講座について感謝の言葉があった。

続いて施設設備については、良い点として、図書館利用、学食の献立やイベントの充実、学内施設の空き時間の活用について意見があった。改善してほしい点としては、エアコン位置による室内温度の不均一な状態、学内へ新たな自動販売機（飲み物や軽食）の配置についても依頼があった。

また、令和5年度の意見交換会で提案したロッカールの改修が年度末に実施され、クラス教室の利便性が上がったことについて感謝の言葉があった。

今後も学生からの声を大切に、教育内容の充実と学生生活環境の向上に向けて取り組んでいきたい。

短大 産学官連携・地産地消推進の取組み 中高 伊奈町で教委と連携、学校開放講座

◆短大

本学は、さいたま市、パレスホテル大宮と連携し、6月29日・30日の両日、さいたまスーパーアリーナで開催された「さいたまスイーツコレクション」においてコラボしたスイーツを販売した。今年1月に三者で締結した地産地消推進を目指す協定に基づいた取組みである。



さいたま市長を囲んで

さいたま市の農家が栽培したミニトマト「プチぶよ」を使用したレシピを本学の学生が考案し、パレスホテル大宮のシェフがアレンジして仕上げた。当日は学生たちが販売にあたる他、会場中央ステージに清水市長とともに登壇し、「プチぶよ」のPRや取組みにあ

この地産地消推進の取組みは通年で行っており、さいたま市発祥のサツマイモ「紅赤」を使用したスイーツや洋食も同様にコラボで開発している。今年もパレスホテルで提供される予定となっており、昨年同様に好評が期待される。

また、今年度はパレスホテルのシェフを迎えて産学官連携の公開講座も実施し、さいたま市の農産物の魅力を発信するとともに、地域の方々へ学びの場を提供している。

今年度の公開講座はこの他、さいたま市委託事業「はじめての災害食講座」在宅避難生活乗り越えるために、や、「親子で参加」こころからだ☆はむダンスエクササイズ、マナー講座を盛り込んだ「おはしの国の洋風会席」等6講座を開講することとし、これまで実施した全ての講座において受講者から高い評価を得られた。

いづれも地域貢献に向けて充実した取組みとなつた。

◆中高

中学校高等学校では、教育の成果や学習環境を地域に広く公開し社会貢献するとともに、学びとふれあいの機会を提供することを目的として毎年公開講座を開講している。

中学校高等学校では伊奈町教育委員会と連携して、地元町民の方々から好評をいただき学校開放講座を開催している。10月12日に町内在住の小学校3年生から6年生とその保護者を対象とした「理科実験教室」が本校の科学実験室を会場として開催された。

今年度も理科の教員を中心に本校の中・高校生が講師となり、「理科観察実験講座」と銘打って、理科に興味をもってもらおうと本校を知ってもらう機会として行われた。

今回の講座は小学生と保護者14組が参加し「化石発掘」「ブーメランづくり」

め、学生との意見交換会を実施している。

令和6年度は学科別に実施し、幼児保育学科3名、健康栄養学科3名の合計6名の代表学生から学科の様子や普段の学生生活で感じている率直な思いを語ってもらった。学院側は学長をはじめ5名の教職員が出席した。意見交換は主に「①授業について②キャリア支援について③施設設備について」の内容で行われた。

第一に授業について、一番ためになったと感じている科目として、健康栄養学科では「校外実習」「給食

学外の実習指導」「保育の5領域における指導法」「特別支援保育I」など実践的な授業が為になっている。また、改善してほしい点として、すべての授業で意見交換や発言する機会等、他者との関わりを求め意見や、パワーポイントを使用する授業については効果的な板書やレジユメの配布など理解を深める展開に向けた意見が出された。次にキャリア支援について、就職活動全般に提出書類など丁寧に対応してもらえたことや、履歴書の書き方・面接練習など学生支援センター職員への対応についての意見があった。また、

財務情報

決算総額約35億円

令和5年度の決算概況をお知らせします。資金収支計算書では決算総額は前年度と比較して、1億2700万円減の約33億円となりました。収入の部では、学生生徒等納付金収入は8億1700万円でした。支出の部では、大宮キャンパス吉敷校地の取得、空調機器設置、伊奈キャンパスグラウンドのプロジェクト整備等の教育施設整備を行いました。また、事業活動収支計算書では、教育活動収支は3200万円赤字、教育活動外収支

は9000万円の赤字となり、経常収支差額は4100万円の赤字となりました。貸借対照表では「資産の部合計」は115億5900万円、前年度末と比較して3億3000万円減少しました。「基本金」は1号基本金が2億7500万円、2号基本金が2000万円増加しました。以上の結果、「純資産」は、96億9900万円となり、前年度末と比較して1900万円減少しました。

詳しくは、当学院のホームページをご覧ください。

第39回 幼児絵画展を開催

90園・所から 801点の応募 子どもたちの喜びと学生の新たな学び

「お絵描き」という、子どもたちの表現活動に対する興味・関心を高め、同時に地域に根ざした幼児教育の振興に寄与することをねらいとした本絵画展も、今年で39回を迎え、今年には県内90の園・所から801点の応募



作品審査の様子

01点のすばらしい作品が寄せられた。厳正な審査の結果、「最優秀作品賞」をはじめとする76点の優秀作品が選定され、五峯祭の当日に表彰式が行われた。当日は、家族に付き添われ、会場にやってきた子どもたちは展示された作品の中から自分の作品を見つけ、家族とともに喜び合う姿が見られた。今年の五峯祭のテーマは「Dream(夢のような体験)」。受賞した子どもたち、そしてその家族に「夢のような体験」をしてもらおうと、今年の表彰式から新たな取組が始まった。それは、学生が表彰式の運営に直接携わること。担当となった学

生たちが協力して表彰式に会場する子どもたちとその家族に「夢のような体験」をしてもらうために準備を重ねてきた。司会も所作指導も全て学生が中心になって行われた。受賞した子どもたちは、大野学長はじめ審査委員から「おめでとう」の言葉とともにそれぞれの賞を授与された。子どもたちの緊張した面持ち、はじけるような笑顔や照れくさそうな様子、そして記念すべき瞬間を逃すまいとカメラを構える家族の姿は毎年恒例の心温まる風景。今年はその状況を、学生が主体となって作り出すことができた記念すべき年となった。

審査委員長を務める松岡滋画伯(洋画家)は、講評の中で、「楽しいという言葉以上に、楽しい気持ちがある」と述べ、子どもたちの作品のすばらしさ、それを指導してくれた園の先生方の指導を高く評価した。それはまた家族への祝意でもあった。講評を聞いた学生たちにとっても、子どもと絵との関わりについて学ぶ絶好の機会となった。晴れの舞台に立つ子どもたちの姿、それを見守る家族の様子に接することによって、子どもたちの絵について専門家の言葉に触れることができたのは、保育者を目指す学生にとって貴重な学びとなった。表彰式の臨む子ども以上に緊張して、式の運営に携わった幼児保育学科の学生たちにとって、それはまさに「夢のような体験」だったかもしれない。

第31回 味彩コンテスト

芸術性、調理技術に感動



調理審査風景

「味彩コンテスト」は、埼玉県芸術文化祭2024協賛事業でもあり、さらに農林水産省関東農政局、埼玉県、さいたま市等の10団体から後援と、パレスホテル大宮等の7団体から協賛を頂き、同窓会との共催で無事開催させていただくことができました。

本年度は、一般の部「彩の国豚豚・埼玉県産のたまご・埼玉県産野菜のいずれかを使用した」ご飯にあう「彩り野菜料理」、高校の部「埼玉県産のたまご・埼玉県産野菜・国内産豚肉のいずれかを使用した」高校生「パランス弁当」をテーマにレシピを募集し、一般の部146名、高校の部153名から応募を頂きました。

かを使用した「ご飯にあう彩り野菜料理」、高校の部「埼玉県産のたまご・埼玉県産野菜・国内産豚肉のいずれかを使用した」高校生「パランス弁当」をテーマにレシピを募集し、一般の部146名、高校の部153名から応募を頂きました。審査委員長の洪川祥子先生からは、「お料理を作ることに楽しみ、誰かに作ってあげることに楽しみ、一緒に食べることに楽しみ」という人間関係をうまくしていくためには料理を作るということも非常に大切なことだと思っております。今日の限られた時間の中であれだけの品数を作ることができるとは素晴らしいと思いました。今後も優れた技術を身に付けていって欲しいと思っております」との講評を頂きました。

出し、令和6年8月3日に調理・試食審査会を行いました。出場者は皆、満を持しての調理審査とあって、本学が国連グローバルコンバクトに加盟していることからSDGsの視点に立ち、食品の廃棄についても配慮して作り上げた作品は、いずれも甲乙つけ難く、素晴らしい作品となっていました。最優秀作品には、一般の部、さいたま市の宇田和子さん「黒豚でサクラ草」、高校の部、越谷総合技術高校の神田恵奈さん「旬の野菜いっぱい！春のぼかぼか弁当」が選ばれました。審査委員長の洪川祥子先生からは、「お料理を作ることに楽しみ、誰かに作ってあげることに楽しみ、一緒に食べることに楽しみ」という人間関係をうまくしていくためには料理を作るということも非常に大切なことだと思っております。今日の限られた時間の中であれだけの品数を作ることができるとは素晴らしいと思いました。今後も優れた技術を身に付けていって欲しいと思っております」との講評を頂きました。

教育実習を終えて 子どもに寄り添う大切さ実感

幼児保育学科2年A組 岩本 梨愛



私は、2年間同じ幼稚園で実習を経験しました。1年次は5日間、2年次は15日間の責任実習を行いました。初めての实習では、大人しい子どもに目を向け、毎朝「おはよう、〇〇さん」と声をかけ続けました。すると、毎日の積み重ねにより、子どもの方から「おはよう」と小さな声ですが聞くことができました。2年次では、1年のときに関わった子どものクラス

保育実習を終えて 日々の保育に気づき持つ

幼児保育学科2年B組 前田 愛子



私は常に笑顔でいることを心掛けて、子ども達と積極的に関わりました。保育を行う上で保育者と子どもの信頼関係はとても重要です。一人ひとりの様子を観察し、声を掛けることで関わりを持ちました。子どもたちは1日の中で多くの発見や成長をします。そのため、一人ひとりに目を向け、日々の保育で気づきを持つことを意識して行っていました。また、

教育実習(栄養教諭)を通して学んだこと 机上の勉強で知り得なかった学び

健康栄養学科 食物栄養専攻2年B組 岡野 彩紀



私は母校である小学校で教育実習に臨みました。実習では5年生の教室で多くの時間を過ごし、児童とたくさんコミュニケーションを取る事ができました。また、給食の時間や委員会活動などにも参加させていただき、児童との関わり方を学びました。実習校では牛乳の残食が多いという実態から、研究授業のテーマは「なぜ給食に牛乳が出るのか」としました。先生方からご指導を

校外実習を通して学んだこと 安心安全の給食を届けるために

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組 濱田 秋歩



私は、さいたま市内の保育園で校外実習をさせて頂きました。実習を通して、アレルギー等の配慮を安全に給食を提供すること、子どもの発育に適切な食形態にすることの大切さを学びました。実習では切裁、盛り付けなどの調理業務のほか子どもたちと実際に触れ合い食育活動を行っていたので、保育士の業務が幅広く活躍していることを実感していました。

施設実習を終えて 当たり前前の日常生活の大切さ

幼児保育学科2年A組 加藤 宏美



私は、1年次と2年次に児童養護施設にて実習を行いました。学校に通う子どもたちの日常生活の支援が中心です。実習中は、自分でできる事を一所懸命こなしてはいるけれど、思い詰めて、自分の出来ない事はばかりを意識してしまいがちです。「施設実習」と過度に緊張したり、萎縮したりすることなく、素直な気持ちで自分ができる事から取り組む事も大切だと学びました。

校外実習を通して学んだこと 調理技術に加え自身も成長

健康栄養学科 調理製菓専攻2年 組 宮本 楓花



私はさいたま市にある保育園で校外実習を経験させて頂きました。実習先では食器の洗浄、食材のカット、盛り付け、清掃等指導していただきました。初めての実習でも緊張していましたが、優しく丁寧に指導していただきました。集団調理で使用する調理器具は大きく、洗うだけで初日は精一杯でした。3日目以降から調理作業も指導していただきました。対象者が子供なので切り方が細かく、普段行っている調理実習とは違う経験をしました。実習中に実際に子供たちが食べている様子を見ることができ、おいしそうに食べている姿を見て、うれしい気持ちと、もつと衛生面には気を付けて作らないといけないと感じました。最終日に近づくにつれ1日の流れが分かり、自分で行ったり自分自身成長する事ができた校外実習だと思いました。ここで学んだことを忘れず、今後の学校生活や就職先でも生かしていけたらいいなと思います。

令和6年度 第26期生国内研修

行き先を自分で選択

自主研修を学校生活や進路活動に活かす

9月23日から9月25日まで第1団、9月24日から9月26日まで第2団の国内研修が実施された。3日間の行程は1日目に第1団は京都、淡路島、第2団は大阪を自主研修、2日目はユニバーサルスタジオジャパン、3日目は神戸での自主



事前ミーティング

研修だった。昨年度から自分で行き先を選択できることと、自主研修の時間が増えたことが主な変更点だ。今回の国内研修に向けて5月頃に研修委員を募集した。研修委員を募集する目的は「自主的、主体的に動くリーダーとして行動し、組織的に動く学年をつくる」である。その目的に向けて、2つの反復目標と遂行目標を立てた。

1つ目の反復目標は教員までの点呼や、教員から生徒一人ひとりへの連絡事項の伝達、整列の指示、身だしなみの注意ができるようになることだ。2つ目の遂行目標は教員との情報共有から状況に応じた判断ができるようになることと生徒に任せうる問題について、研修委員一人

の中で素早く乗車できるように整列ができたことや、新幹線内での役割を決めることで乗車してから一般のお客様の迷惑にならないように全体を動かすことができた。

この一連の流れについては、前日の研修委員のミーティングで事前に注意すべきこととして話し合い、どのように行動したらよいか自ら決めて行動に移すことができた。そして研修委員の行動する姿を見て、周囲の生徒も自発的に協力することができた。

研修先ではリーダーシップ研修で学んだことを生かして、整列、点呼、連絡事項の伝達をすることができた。例えば、新幹線の乗車の際には限られたスペース

国内研修第1団 京都・淡路島コース 他者に頼ることの大切さ

高校2年H組 坂本 一紗



私は1年生の時から研修委員として活動し、今回、国内研修第1団京都・淡路島コースに副研修委員長として参加しました。初めは、副研修委員としてしっかり行動ができるのか、他の研修委員の仲間と協力しながら全体をまとめていくことはできるのかと不安な気持ちがありました。安全に安心してみんなが行動できるようにするためにどうしたらいいだろうか、全員が満足して楽しめるだろうか。不安が心に溢れていました。しかし、準備を進めていく中で、他

研修委員の仲間と協力して、考えていく中でそのような不安は薄まっていきましただけで、自分が思っていたよりも緊張はせず、落ち着いて行動をすることができていました。もちろん、全てを完璧にスムーズに進めることができたとは言いきることはできません。ただ、この研修旅行を通して私には大きなことを学びました。それは協力することや、困ったときには誰かを頼ることです。当たり前のように感じる言葉ですが、簡単に実行できるものではないと思います。1人でできないことは必ずあります。そんな時、他の人を頼ることは決して恥じることではないのです。今回、研修旅行を終えて

私は研修委員として活動してよかったと感じました。協力することも、頼ることも苦手とする人はきっといます。私もその一人でした。

国内研修第2団 大阪・神戸コース 自由行動で関西を満喫

高校2年H組 今野 麗愛



私たちが国内研修第2団は、9月24日から26日までの3日間、大阪と神戸に行ってきました。今年も昨年に比べ、新型コロナウイルス感染症の規制も緩和され、自由行動がメインの研修を行うことができ、期待に満ちた3日間となりました。1日目は大阪を巡りました。たくさんのお名物に訪れ、たくさんのお名物を食べ、有意義な1日を過ごす

私たちが国内研修第2団は、9月24日から26日までの3日間、大阪と神戸に行ってきました。今年も昨年に比べ、新型コロナウイルス感染症の規制も緩和され、自由行動がメインの研修を行うことができ、期待に満ちた3日間となりました。1日目は大阪を巡りました。たくさんのお名物に訪れ、たくさんのお名物を食べ、有意義な1日を過ごす

今回の研修旅行は、私の人生の中でもとても大きな一歩であり、経験となりました。研修を無事に終え、最後になりましたが、今回大きなトラブルなく研修を終えることができたのは関わってくださった先生方を

令和6年度海外研修 異文化に挑戦する大切さ

高校2年J組 内田 由菜



私は、9月25日から4泊5日のオーストラリアでの海外研修に参加しました。海外研修に参加したことで、多くの生徒にとって初の海外渡航で、ホームステイが含まれるため、期待と緊張が入り混じる研修でした。8時間にわたる飛行機での移動を終えた2日目は、遊園地「ムービーワールド」を訪れ、昼食にはホストファミリーが準備してくれたお弁当を皆で楽しみました。各家のお弁当の味の違いから、食文化の多様さを実感しました。4日目は一日ホストファミリーと過ごす時間でした。英語での意思疎通に最初は苦労しましたが、ジェスチャーや相手のサポートを通じて徐々に会話が弾み、挑戦する大切さを感じることができました。

全国高校総体で自己ベスト更新

高校3年A組 関川 莉良



賞状 第49回 関東陸上競技選手権大会 陸上競技部 女子5000m 関川 莉良 国際学院高等学校 令和6年9月23日 関東陸上競技協会 会長 吉田 秀志

私は7月28日から行われた全国高等学校総合体育大会に走幅跳で出場しました。私にとってインターハイ出場は中学生からの大きな目標であり、インターハイで活躍するために本校入学を決意しました。昨年はリレーで出場することができましたが、個人種目は大

クラブ活動報告

会前のケガも重なり、出場を果たすことができませんでした。高校3年生の今年は、最後の挑戦に懸けて練習に取り組んできました。しかし4月に膝を怪我してしまい、練習ができな日々が続きました。昨年と同様に怪我をしてしまい、焦りを感じる日々が続きました。

5月に行われた埼玉県大会では体の状態が万全ではないなか、専門種目の走幅跳で6位に入賞し、なんと関東大会の出場を決めることができました。1カ月後の関東大会に備えて、怪我をした部位のリハビリを積極的に行い、ベストな状態で試合に挑むことを目指しました。そして、迎えた6月の関東大会では怪我の不安もなく、ベストな状態で試合に挑むことができました。事前のランニングはインターハイ出場権内ではありませんでした。自己新記録となる5m59を跳び、3位入賞を果たし、念願のインターハイ出場を成し遂げることができました。

3年連続で全国高校総体出場

高校3年K組 三島 菜楠



私は7月28日に福岡で行われた全国高等学校総合体育大会に出場しました。これまで1年生から100m、200mでインターハイ出場を果たしており、3年連続での出場を達成することができました。これまでのインターハイでは思うような結果を残すことができず、最後のインタ

私は、大学でも陸上競技を続けるため、自分の課題を分析、探求することを大切に、これからも競技力向上に励んでいきたいと考えています。私の最後のインターハイは悔しい結果に終わってしまいましたが、怪我をしてしまったことは私にとって大きな試練であると同時に成長する機会であると考えていました。怪我を通じて、競技に対する情熱や努力の大切さを再認識し、逆境を乗り越える力を養うことができました。

お弁当を皆で楽しみました。各家のお弁当の味の違いから、食文化の多様さを実感しました。4日目は一日ホストファミリーと過ごす時間でした。英語での意思疎通に最初は苦労しましたが、ジェスチャーや相手のサポートを通じて徐々に会話が弾み、挑戦する大切さを感じることができました。今回の研修を通して、異国の文化の違いを肌で感じています。また、異国での仲間と共有した体験は大切な思い出となり、絆も深まりました。この学びの機会をくださった先生方や関係者の皆様に感謝し、これからも新しい挑戦を続けていきたいと思っています。

令和6年度第1学年 TGG語学研修

英語学習の意欲向上のきっかけに

海外にいるかのような疑似体験

TGGとは、東京都教育委員会と株式会社TOKY EWAYが提供する、「日



イングリッシュ・スピーカーが生徒をサポート

常から離れ、海外をイメージして作られた街並みで、いつもと違う環境のなか、グローバルな世界を存分に体験することができる「教育施設」。

グローバル化が進むなかで将来、グローバル社会で活躍する子どもたちが、英語を使用する楽しさや必要性を体感し、英語学習の意欲向上のきっかけ作りとして、TGGは存在しています。

10月7日、夏の暑さが残る中に少しずつ秋の気配を感じながら、訪問先であるTGGを訪れました。第1学年は、今回が初めての校外行事となりました。エール水先案内人として、「インジェント」と呼ばれる「イン

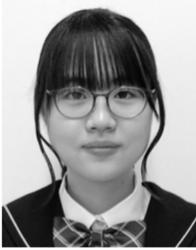
日常生活で出会う様々な課題を設定され、必然的な英語のやり取りが促されました。

中学校海外研修

厚かった言語の壁

中学3年1組 志摩茉莉亜

私たちは、11月10日〜13日までの4日間、マレーシアに海外研修に行ってきました。途中で雨に降られたり、



射撃部

6年間の思いをのせて

高校3年K組 入江 瑞枝



私は6年間射撃部に所属し、様々なことを経験し、学んできました。

中学3年間は陸上競技部と兼部をしました。小学生の頃から取り組んできた陸上競技を中学でも続けられたことは幸いでしたが、両競技とも練習に参加できる日数が他の部員よりも少な

かったので、自分が周りから部員として認められているのか不安になったり、パフォーマンスに自信が無くなったりしました。

しかし、顧問の先生方、他の部員と同じように指導していただき、鼓舞してくださったことで、今ここで諦めた後後悔するかもしれないと思ひ、兼部をやり抜くことができました。

他の部員に付いていくのではなく、追いつく気持ちで自己を成長させてくれたと感じています。

今年度の全国大会の団体戦は、この6年間で特に印象に残っています。

私はこれを無駄にしたいと思いません。無念はバネに変えて次の目標に向けて頑張ろうと再始動しました。

今年度の全国大会は、今までの全国大会で、周りからの期待もあつたので、悔しさと申し訳ない気持ち、目標を失った喪失感に苛まれました。

今年度の全国大会は、今までの全国大会で、周りからの期待もあつたので、悔しさと申し訳ない気持ち、目標を失った喪失感に苛まれました。

今年度の全国大会は、今までの全国大会で、周りからの期待もあつたので、悔しさと申し訳ない気持ち、目標を失った喪失感に苛まれました。

今年度の全国大会は、今までの全国大会で、周りからの期待もあつたので、悔しさと申し訳ない気持ち、目標を失った喪失感に苛まれました。



10月25日、通信制課程では朝からさいたま市岩槻区にある農家を訪問し、農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

農場見学やBBQ体験をさせていただきました。農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

農場見学やBBQ体験をさせていただきました。農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

農場見学やBBQ体験をさせていただきました。農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

農場見学やBBQ体験

学年を超え楽しく時間共有

通信制課程校外学習

10月25日、通信制課程では朝からさいたま市岩槻区にある農家を訪問し、農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

農場見学やBBQ体験をさせていただきました。農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

農場見学やBBQ体験をさせていただきました。農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

農場見学やBBQ体験をさせていただきました。農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

農場見学やBBQ体験をさせていただきました。農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

農場見学やBBQ体験をさせていただきました。農場見学やBBQ体験をさせていただきました。

高校とは違った楽しさ

高校1年G組 岡田 結菜



今回初めて大学に行き、大学のイメージが大きく変わりました。私がイメージしていた大学は少し怖いく、堅いものでした。

今回受けた講義体験は、

今回受けた講義体験は、

今回受けた講義体験は、



後日、この行事に参加した生徒たちは当日の様子を楽しそうに語っていました。

声出し応援で大いに盛り上がる



短大体育大会選手宣誓

大会 短大体育大会

クラスの一致団結で工夫

短大生活でのよい思い出に

短大実行委員長 石山 楓佳

今年の体育大会は、昨年引き続き、両学科2学年合同での開催、また声出しの応援も可能だったため、かなり盛り上がった体育大会となりました。

私が体育大会委員長をすることになり、意識したことは常に周りを見て行動することです。昨年の反省を活かし、今年は昨年とかなり競技が異なり、初めて行う



競技ばかりでした。そのため、まずは体育大会委員長、体育大会委員がルールや流れについて理解する必要があります。リハーサルから本番まで、自分に参加しない競技でも対応できるように、常に周りを意識し行動することが出来ました。

6月1日から2日にかけて、国際学院中学校高等学校体育祭が実施された。例年、中高別に実施していたが、今年度は中学校3年生から高校3年生を3色に分け、中高合同3色対抗

で各種目を競った。団体競技・個人競技ともに白熱した戦いがあつたが、その中でもクラス対抗リレーは男女ともに大いに盛り上がった。すべての競技の結果青組の優勝となつ

中高体育祭 高校 受けつがれる伝統 中学 ラストイヤーにふさわしく

中高体育祭

クラスでの団結と言う意味も込めて、クラスそれぞれが決まった色でサンングラス

やバンダナ、メガホンなどの装飾品を可能にし、さらに楽しんで貰えるような工夫もしました。

異国の文化に触れる貴重な経験

健康栄養学科 食物栄養専攻 2年A組 豊田 美穂



新型コロナウイルスの感染拡大防止のために催行を中止していた海外研修が再開され、6月12日から5泊6日でオーストラリアのクイーンズランド州に行きました。博物館や自然保護区などに立ち寄り、オーストラ

リアの歴史・文化を学び、豊かな自然に触れるとともに、3泊4日のホームステイを体験しました。水資源が貴重なオーストラリアでは、シャワー時間を短くしたり、食器を洗う水を節約するなど、限りある資源を有効に使って

この研修での有意義で貴重な経験を、将来に役立てたいと思います。



和食では、蒸す・茹でる・煮るなど、水をたくさん使用して調理しますが、オーストラリアでは、食材の素材をそのままに、オーブンやグリルで焼くことが多く、調理方法にもその特徴が現れていました。また、ホームステイ先で生活者として過ごした時間はとても貴重な経験となり、異国の文化に触れることもできました。

仲間たちとの絆深まる

短大五峯祭委員長 岸田 瑞稀

短大五峯祭

今年度の短期大学の五峯祭委員長を務めさせていただき、無事にこのイベントを終えられたことに、安堵とともに大きな達成感を感じています。

今年度のテーマは「Dream 夢のような体験を」です。このテーマには多くの人が夢を与える職業人を目指している私たち学生が、来場者に夢を与えることも

準備期間中は、スケジュールの調整や事前準備にも苦労しました。特に、コメントについては、予期せぬ問題が発生することもあり、先生方と解決方法を考え、一歩ずつ進んできました。この経験を通して、

学生・生徒たちの発表や展示に対して温かい拍手や笑顔を送ってくださる姿を見て、これまでの努力が報われた思いで胸がいっぱいになりました。また、一人ひとりが自分の役割を全うし、成功に向けて全力を尽くしてくれたことに感謝しています。

今回の五峯祭を通して、多くの学びを得るとともに、仲間たちとの絆が深まったと感じています。この経験は、これからの学生生活や将来にとっても大きな財産になると思います。最後に、この五峯祭を支えてくださった全ての皆様により感謝申し上げます。

施、実行委員会の任期変更など大きな変更がありました。今年度は、ほぼ昨年を踏襲する形でした。しかし踏襲も決して簡単なことではありません。実行委員は立候補制です。毎年、新たな面々とチームビルディングし、ゴールに導く必要があります。協力して困難を乗り越えていく中



短大五峯祭



中高五峯祭

で、強い結束力が生まれました。こうした催事に際して、スタッフのことを裏方と呼ぶ習慣がありますが、私は理解できません。最近も本校で映画の撮影が行われましたが、アクターの何倍もの人数のスタッフが、撮影時間のそのまた何倍も時間をかけて準備して

ます。それらの業務はどう考えても制作の中核であって、裏ではない。思うに、裏方という表現は観客側の視点なのです。観客からすれば、舞台上の演者しか目に入らず、見えない部分で何かしている人は全員裏方になります。ところが、ひとたび制作側の視点に立てば、裏方が業務のほとんどを占めることに気が付きます。

五峯祭は生徒がこうした制作側、広くいえばサブプライヤーの視点を学ぶことが目的で開催されています。もちろん有志団体企画や生徒企画への参加も貴重なものですが、その全貌を知りたければ実行委員に入るのがおススメです。裏ではなく中核を担うことができ

ます。来年度の五峯祭をつくり上げましょう。

相手を思いやり食事楽しむ

健康栄養学科 食物栄養専攻 1年A組 山根 来海

西洋料理テーブルマナー講座

9月4日パレスホテル大宮にて「西洋料理テーブルマナー講座」が行われました。テーブルマナーは、高校生の頃にも少し学んでいたのですが、実際に体験し取

り組むことは初めてでした。両学科の1年生と先生方が一堂に会し、広い会場で、本格的なスタイルでお食事をいただきながら学ぶ機会でしたので、とても緊張しました。

講師の先生は、テーブルマナーや作法だけではなく、料理についても詳しく教えていただきました。また、招待をされてからの返信の仕方、身だしなみや場

にふさわしい態度など、これから社会人になるにあたって重要なことも学びました。大変興味深いお話をたくさん聞くことができ、多くの学びを得られる時間となりました。そして動作だけでなく「料理を味わい、食事を楽しく相手への思いやりやの気持ちを込めて和やかな雰囲気」ということを忘れてはいけないことだと実感することができました。

制作に裏方はいない

困難を乗り越え強い結束力

9月7日、8日に、第27回五峯祭が開催されました。昨年度はコロナ禍明けの一般公開や後夜祭の実

9月7日、8日に、第27回五峯祭が開催されました。昨年度はコロナ禍明けの一般公開や後夜祭の実

9月7日、8日に、第27回五峯祭が開催されました。昨年度はコロナ禍明けの一般公開や後夜祭の実

9月7日、8日に、第27回五峯祭が開催されました。昨年度はコロナ禍明けの一般公開や後夜祭の実



9月7日、8日に、第27回五峯祭が開催されました。昨年度はコロナ禍明けの一般公開や後夜祭の実

9月7日、8日に、第27回五峯祭が開催されました。昨年度はコロナ禍明けの一般公開や後夜祭の実

おもちゃインストラクター養成講座開催

4つのワークショップと4つのレクチャーで構成

身近な素材を用いた遊び体験

海外の木製おもちゃで遊び盛り上がる

9月9日、第12回「おもちゃインストラクター養成講座」が開催され、国際学院埼玉短期大学の会場へ幼児保育学科の学生41名が集った。

この講座は、認定NPO法人「芸術と遊び創造協会」で、東京都新宿区にある東京おもちゃ美術館と提携して開講される例年人気の講座である。玩具を中心として展開される子どもの遊びと数々の学びによって、幼児保育学科の学生たちが保育者を目指す意識や自覚を高め、質の高い保育者養成に寄与することが期待されている。

講座は子どもも理解や遊びのきっかけと工夫、試行錯誤といった力を養うため、4つのワークショップと4つのレクチャーで構成される全6時間の体験型カリキュラムとなっている。

当日は同協会から講師が来場し、珍しい玩具の数々を教室に展示した。学生たちは、講座が始まる前から興味津々に玩具を手に取り、遊び方を模索していた。

この講座で実演される身近な素材を用いた遊びとは、例えば、画用紙・ハサミ・のり、という基本素材と道具を用いてできる「手品カード」や「六角返し」、「数字パズル」、「奇妙な生き物(不思議ボール)」と呼ばれるもので、日本古来より伝わる遊びのアイデアが詰まっている。

また、カッターの持ち方や切り方について具体的な指導を受け、切りやすい方法や効率のよい道具の使い方も学んだ。学生たちは「手には2万個のセンサーがついている」といった講師の言葉に驚き、手指を自ら動かして素材に触れたりモノを作ったりすることに

認定NPO法人芸術と遊び創造協会から講師派遣

重要性を再確認していた。また、新聞紙一枚でどのような遊びができるか受講者全員で考え、「新聞紙でとことん遊ぶ」という実践も行われた。ここでは、折る、ちぎる、破る、丸める、などの動作から「新聞紙かくれんぼ」や「新聞紙ボール」、「新聞紙ずもろ」、「新聞紙じゃんけん」など多様な遊びが提案された。

新聞紙輪投げに紙皿を接着することで、「フリスビー」や「皿回し」に変化した。受講生たちは「うまくできない」「どうしたら成功するのか」と各自苦戦しながら皿回しに挑戦し、新しい方法を見つかったり教えたったりするなど工夫する力を発揮していた。

さらに、「世界のおもちゃで遊ぶ・学ぶ」では、世界グッドトイに選ばれている

「おもちゃインストラクター認定証」を修了後に授与

講座終了後には「おもちゃインストラクター認定証」が授与されたが、学生たちは達成感に満ちた笑顔で、完成した作品を自慢げに見せ合う姿があった。受講生からは、「楽しかった！家庭や保育の現場で用いられる素材が、これほど多様な遊びを生み出すとは思わなかった」「グループでの競争には思わず熱が入ってしまった、大人も十分に楽しめた」という声が寄せられた。

また、「子どもを引き付けたり夢中にさせるような遊びに対する考え方や方法を学んだ」「実習では自分の工夫を加えて身近な素材で遊んでみたい」と、保育者としての自覚や技能の向上に繋げようとする姿も見られた。

この講座ではゲームの優勝者に東京おもちゃ美術館の入場券が授与されるなど、受講者が玩具について引き続き関心を継続するよう工夫がなされている。

経済的援助必要と認められる学生支援

2年間で40万円支給

13名が予約奨学生に決定

令和6年5月24日、短期大学は新たな奨学金制度として「大野誠奨励奨励資金奨学生(予約型)」と「大野誠奨励奨励資金奨学生(国際学院)」を創設した。

本制度は創設者大野誠先生の名を冠し、経済的援助が必要と認められる学生に年間20万円、2年間で40万円の減免が行われる。

記念すべき第1回の本奨学生には予約型20名の定員に対して13名の応募があり、7月13日の面接を経て、全員が予約奨学生として決定した。

令和7年度入試からスタート！
大野誠奨励奨励資金奨学生(予約型)

特長1 年間20万円、2年間で40万円の減免
1年前期10万、後期10万、2年前期10万、後期10万を減免。ただし、1学年前期については、入学時に、10万円を減免する方式となります。

特長2 7月に実施する面接の結果で予約完了
⇒入学者選抜で合格してから正式に決定

対象者
「経済的援助が必要と認められる学生」下記の12項目いずれかの条件を満たす学生(主たる生計維持者であり、学生の父母またはこれに代わって生計を支えている一人一人の収入金額)に該当する学生。
① 給与所得等 84万円以下 (源泉徴収額の支払金額(税込)のみ)
② 給与所得等以外の者 35万円以下 (確定申告書の所得金額(税込)のみ)

定員 20名

応募から決定までの流れ
応募期間(9/15～10/15) → 書類審査(10/15～10/31) → 面接(11/15) → 結果通知(11/30) → 入学(12/1) → 減免

お問い合わせ 平日9:00~17:00
048-641-7468(代表)
大野誠奨励奨励資金奨学生 奨励金担当 郵便・上野

新たな一歩を踏み出す

学友会会長 庄田 羽留奈

短期大学学友会活動報告

昨年は新型コロナウイルスが第5類まで引き下げられ、後期にはマスクを外しての学校生活が始まりました。また、創立60周年ということもあり、それにちな



そのようなことがあった次の年ということもあり、私たちは先輩方のようにできるのか、そんな不安がずっと心の中を占める中で始まった新しいメンバーでの学友会でした。

今年新しいイベントとして「七夕イベント」を行いました。はじめは手探り状態でしたが、学友会メンバーで案を出し合い、何とか成功させました。その他は、例年と同じ体育大会、

五峯祭での学友会企画を行いました。昨年に引き続きハロウィンイベントを開催しました。

体育大会では、「もうじゆう狩り」を行い、学年学科を超えて交流をすることができました。五峯祭では、今年から幼児保育学科も各クラス単位での学習成果の発表ではなく、ゼミごとにそれぞれが学習成果を発表するという形に変わりました。

他のゼミと合同で行ったりと、一つのゼミ単独で行ったりと、どのゼミも手探り状態で行っていました。人数がクラス単位とは違い少なくなっても、各ゼミとも昨年度まで同様のクオリティを求めて一人一人が学校に夜遅くまで残り準備



学校全体で一体感

高等学校・中学校生徒会活動報告 生徒会会長 高校3年K組 新井 元基

創立61周年という学校の新たなスタートとなる今年、学生・生徒一人一人ができたのではないかと思います。

活動がスムーズに進み、生徒の皆さん、先生方には感謝の気持ちで胸が溢れています。

去る9月に実施された五峯祭は、例年以上に盛り上がりました。生徒一人一人が個性を発揮し仲間と協力して、素晴らしい作品をつくり上げ企画を実施してくれました。特に、最優秀賞や勉強で忙しい日々だったペットボトルのキャップを使ったモザイクアート作品は、来場者の方々や生徒たちから好評を博しました。その他の生徒会企画や有志

企画も各団体が協働し、それぞれが魅力的な企画をつくり上げることができました。当日は、来場者の心に寄り添ったおもてなしを、生徒一人一人が実行できたのではないのでしょうか。運営を指導した五峯祭実行委員の皆さん、先生方、保護者の方々の協力があったからこそ成功でした。この場をお借りして感謝申し上げます。

今年の五峯祭は、生徒同士の交流を深めるだけでなく、学校全体の一体感を高める貴重な機会となりました。生徒会本部役員一同、この五峯祭を皆さんの最高の思い出になるように尽力してきましたが、何よりも生徒たちの熱意と協力があ

つてこそ実現できたものだと感じています。本当にありがとうございます。

また、生徒会では、軽食自販機設置事業を開始しました。この事業は、長年の生徒たちからの意見をもとに企画されたもので、より良い学校生活を送るための第一歩となるものです。事業開始に向けて実施されたアンケートでは、多くの生徒が積極的に参加してくれました。生徒たちの温かい協力に感謝しています。自販機を設置することで、生徒たちの憩いの場となるだけでなく、学校全体の活性化にもつながると期待しています。

皆さんの協力により、この事業は早ければ今年度中に完了すると思っております！

また、緑のトラスト募金、赤い羽根共同募金の募金活動においても、活動に参加した生徒、募金をした生徒といった、多くの生徒の協力を得ることができました。皆さんからご協力いただいた募金は、地域の緑化促進や福祉施設の改修などというように、社会において大いに役に立ちます。皆さんの温かいお気持ちに感謝申し上げます。ありがとうございます。

今日までの半年間、私たち生徒会本部役員を支えてくれた全校生徒の皆さん、生徒会本部役員の皆さん、先生方には本当に感謝しております。ありがとうございます！

